

コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第174号

「経験値、上がりました？」

2025年4月28日

実は「コウノトリも本能で繁殖できるの？」と思っていました。空と花は育すう（子育て）未経験ではありますが、成功と失敗を繰り返しながら、少しずつできるようになっているように見えます。

巣作りは最初より上手になり、交尾のために空（♂）が花（♀）の背中に乗るのも、徐々に上達してきました。抱卵についても、初めは体の下から卵が出てしまっていたましたが、しっかりおなかの下に入れて抱卵できるようになりました。花も最初の産卵（2023年）の数は3個でしたが、今年は5個になりました。

では、今年新たに2羽が経験したことのお話です。

今年最初に産卵した1卵は運悪く爪で穴を開けて割ってしまいましたが、その後の4卵は上手に抱卵しました。そして卵を入れかえる托卵。卵が変わっても抱卵を続け、ヒナが初めてふ化しました。

ふ化の前には「嘴打ち（はしうち・鳥のヒナがふ化する前に卵の殻を内側からくちばしでつつく行動のこと）」があります。飼育係がふ卵器でふ化させる場合、嘴打ちが始まる少し前からは卵を動かさずに静かに見守ります。しかし、空と花の場合は嘴打ちが始まって、気にする様子もなく転卵を続けていたので、見ていて心配になりました。（転卵とは、鳥が卵を温めながら定期的に卵を転がす行動のことです。）関係は分かりませんが、3卵中1卵は「しごもり（嘴打ち後、ヒナが力尽きてふ化できないこと）」2卵はふ化しました。

そして初めてのヒナへの給餌（きゅうじ）です。

最初は花（♀）が積極的に行い、空（♂）はやや遅れて参加しはじめました。途中、ヒナの1羽が死亡しました。2羽で餌をねだっていたのが1羽になってしまったことで、親へのアピールが足りなくなったのか、残りの1羽のヒナは成長が遅く感じられるようになりました。ほかの施設の経験者のみなさんへ相談したところ、飼育係が補助的に直接ヒナへ餌を与える方法もある、と聞きました。“コウノトリは育すう中に人が近づいてもヒナの放棄はしないことが多い”という言葉に背中を押され、ヒナが食べやすいよう小さめのドジョウを選んで与え始めました。3日ほど経つと、だんだん体がしっかりしてきて、元気に鳴いて餌待ちアピールもできるようになってきました。



まだ弱々しいヒナ（11日齢）



勢いよく食べています（19日齢）

通常うまれてから15日齢ほどで、人から与えられた餌は食べなくなることが多いそうですが、それ以降も親からの給餌で足りないときは飼育係が与えた餌も食べています。ヒナの成長は5～7日ほどゆっくりペースのようですが、着々と大きくなっています。親からの給餌も増えてきています。空も花もヒナもさらに経験を重ねて、これからもどんどん成長してくれることを願っています。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：しみじい